

郡上農林事務所の普及活動状況 令和5年1月31日現在

今月の重点活動

■新規就農 新・農業人フェアで就農相談

1月14日、農業普及課は郡上地域での就農希望者を募集するため、東京都で開催される就農相談会としては最大級の「新・農業人フェア」に中濃地域就農支援協議会とともに参加した。当日の会場への来場者は980名とやや伸び悩み、協議会ブースに着座しての相談者は6名にとどまった。今回訪問していただいた方へは今後も情報提供を行い、郡上市での就農検討に繋げていく。

また、東京交通会館にある首都圏からの移住を促進するための施設「ふるさと回帰支援センター」を訪問し、トマトの学校入校説明資料のレイアウト変更を行った。



【目に留まりやすい場所にパンフ等を設置】

郡上の農業・農村を支える人材育成

■高鷲農業簿記研修会 インボイス制度の勉強会を開催

高鷲農業簿記研修会では、12月から3月にかけて、だいこん、いちご、トマト、花卉などの生産者が定期的に集合し、簿記記帳研修を行っている。通常はJAや農業普及課が仕訳の助言等を行っているが、令和5年10月から始まるインボイス制度への対応を確実にを行うため、1月26日に農業経営スペシャリストであるソリマチ(株)の野田氏を講師に招き、インボイス制度への対応についての勉強会を開催した。

研修では、インボイス制度の概要、経過措置、農業簿記ソフトでの仕訳方法について紹介があった。また、販売先による特例措置もあるため、販売先や販売金額によってインボイス制度に登録するかどうかの検討が必要とのことであった。

農業普及課では、簿記記帳の支援とともにインボイス制度の周知や対応について継続して支援を行っている。



【研修会の様子】

安心して身近な「郡上の食」づくり

■夏秋トマト 次年度の栽培暦を検討

郡上市園芸特産振興会夏秋トマト部会が令和5年度の栽培暦検討会を開催した。会議では本年度の栽培経過をもとに見直した栽培暦の案を農業普及課が提案し、関係機関や部会員で内容を検討することで次年度の暦を作り上げた。

農業普及課は夏秋トマトの更なる生産拡大に向け、関係機関と連携し支援を継続する。

品種	播種	定植	収穫
早生種	12月	1月	2月
中生種	1月	2月	3月
晩生種	2月	3月	4月

【次年度の栽培暦案】

■夏秋トマト 個別懇談会を各地域で開催

郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会では、1月24～30日に管内の6地域で個別懇談会を開催し、次年度の栽培計画を取りまとめた。懇談会では、個人毎の出荷実績や栽培記帳記録をもとにして、JAや農業普及課からの助言を参考に、生産者自ら次年度の品種や定植時期等が決められた。

近年、病害発生による単収低下が問題となっているため、資材消毒や薬剤散布が徹底されるよう農業普及課から技術支援を行い、また、作期を遅くする作型を組み合わせる提案を行い、作業分散と後半の出荷量確保を意識した計画づくりについても助言した。



【個別懇談会の様子】

郡上農畜水産物のブランド展開

■果樹 栗のせん定講習会を開催

郡上市明宝の大谷マロン会が栗の剪定講習会を、1月11日に開催した。

講習会では、中山間農業研究所中津川支所の研究員を講師(農業普及課補助)に、丹沢と利平・銀寄の結果枝の特徴と剪定方法の違い等の説明が行われ、剪定を実演しながら、講習が行われた。

大谷マロン会は、平成14年度に遊休桑園の活用を目的に設立された組織で、会員22名で構成されている。共同で栗園を2.2haを管理し、地元の道の駅明宝や可児市の湯の華アイランド等で販売されており、地域の活性化にもなっている。

今後も、農業普及課では大谷マロン会の活動を支援していく。



【剪定講習会の様子】

■切り花 フランネルフラワー栽培後のハウス整理

12月22日に切り花フランネルフラワー生産ハウスで収穫後の片づけ・整理を支援した。

これまでは令和2年播種、3年播種の株を中心に収穫出荷していたが、葉色の黄化や灰色かび病が発生し、また令和4年播種で育苗中の鉢の株間を広げる必要があるため、栽培を終了してベンチを空けた。

農業普及課では、月2回程度土壌のEC、pHを測定し、適切な管理支援を行っている。また今後は、農業技術センター作成の管理暦をもとに安定出荷ができるよう栽培支援を続ける。



【整理中のハウス】